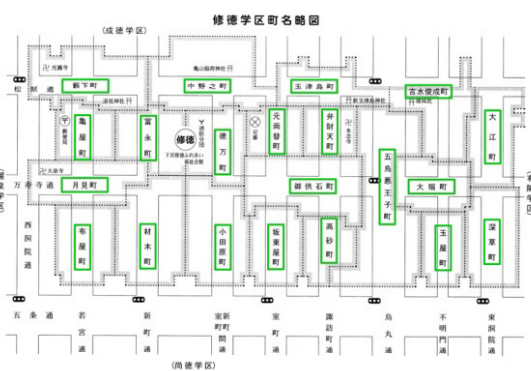


[FBL/PBL] コミュニティ・ガバナンスに基づく 街並み景観のデザイン

実施責任者: 門内輝行(工学研究科・建築学専攻・教授)、十河卓司(デザイン学ユニット・特定准教授)
 実施協力者: 小西宏之(修徳まちづくり委員会・顧問)、工学研究科・建築学専攻・門内研究室大学院生
 履修者: 藤田弥世(教育学研究科・教育科学)
 宍倉洋介・藤田 萌・羽田祥子(経営管理大学院・経営管理)
 堀 友彌(情報学研究科・社会情報学)
 荒木友里(工学研究科・建築)

1. テーマの背景・実習の内容 [2013年前期]

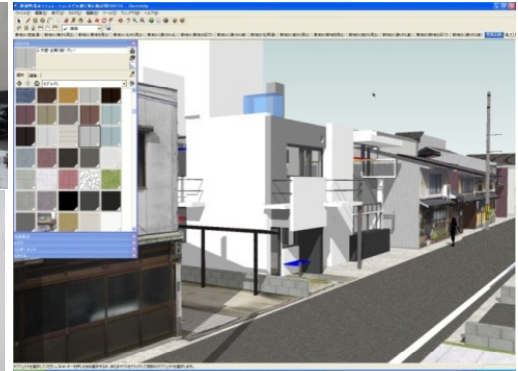
街並み景観は、要素間の関係から創発する全体に深く関わっている。自分の敷地の中では、定められた法規制の範囲内であれば何をしてもよいとする「敷地主義」の立場からは、魅力的な街並み景観を形成することは本質的に困難である。美しい街並みを形成するためには、個々の建物をデザインするだけでなく、**建物相互の関係、建物と人間・環境との関係、さらに居住者相互の関係などをデザインしていく必要がある**。そこで、コミュニティ・公共・民間等の異なる立場を含む多くの関係主体が協働して、現代都市の文脈において、魅力的な街並み景観をデザインする可能性を探る。



京都市下京区修徳学区の都市エリア(町と町組)



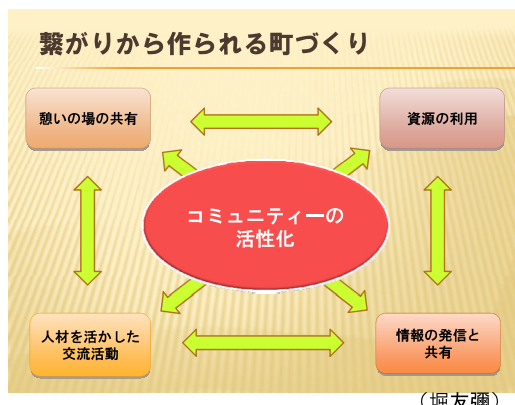
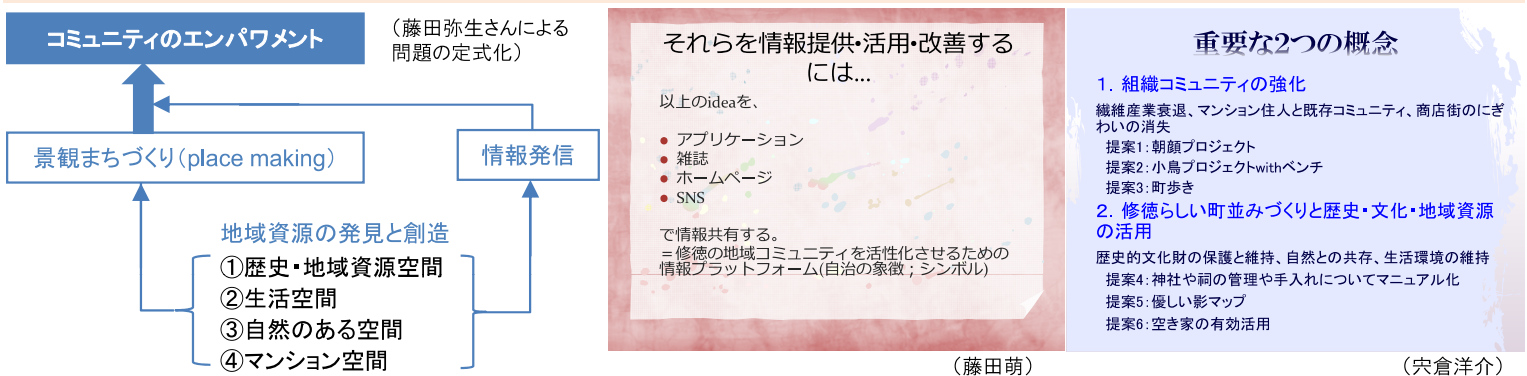
修徳学区の街並み景観(現地調査)



3次元CGを用いた街並み景観のデザインワークショップ

2. 問題発見と問題解決 [学生のプレゼンテーション]

共同性を本質とする街並み景観の問題は、**コミュニティのあり方と深く結びついている**。コミュニティが脆弱化した現代社会では、**地域資源の発見と創造を通じて、互いに他を活かし合う魅力的な街並みを創り出す集合的活動を展開し、コミュニティの強化を図る必要があるが、そのためには「コミュニケーション」が極めて重要な意味を持つことを明らかにした**。



- 空家**
 ★ それぞれの空家をあたらしいシェアハウスとして利用する。
 ★ 主に学生(若い人)がターゲット
 ★ それぞれの家はそれぞれに特徴をもつ。
 - 空き地・駐車場**
 ★ 修徳公園には芝をひき生物の住み良い環境にする。
 ★ 空き地は竹を植えることで境内のような静かで落ち着ける場所に
 ★ 小さな水場を設け、徳公園の水場と生物が行き交えるようにする。
 - 図書館**
 ★ 下京区図書館の休平日(毎週火曜日)を自習室として開放する。
 ★ 係の仕事は町内で交代制にして管理する。
 - マンション**
 ★ 修徳の安全さを生かしてより開放的なマンションをつくってみる。
 ★ 戸建てと集合住宅の中間のような住宅。だいたい4~5階建て
 ★ 緑を共有できる家
 ★ 地元の人で営まれるお手頃な食事処が1階に入っている。
- (荒木友里)

- **住民のギャップを埋めることで**
 - 住民の地域への依存性と愛着と誇りを高め
 - 地域景観を重要視する住民心理を醸成する
 - **住民のギャップを埋めるために**
 - 世代間のニーズとヘルプをマッチングする仕組み
 - 新旧住民のコミュニケーションを促進する仕組み
 - 住居形態の違いによるコミュニケーションをニーズの充足により補完する仕組み
 - まちの資産(伝統、町屋、空き地、若者、学生、子ども、新規住民、リタイア世代、利便性)を生かす仕組み
 - コミュニケーションが自然発生する自然環境整備
 - コミュニケーションを促進するメディアの利活用
- (羽田祥子)